



2019年3月期
(2018年4月1日～2019年3月31日)
決算説明資料

2019年5月16日
ディーバイエックス株式会社
証券コード：3079

1. 当期のポイント

取り巻く環境

- ・ 2018年4月に診療報酬の改定が実施
 - ・ 医療機関からは保険償還価格の引き下げによる値下げ要請のほか、経営環境改善のための値下げ要請への対応も求められる
 - ・ 仕入先メーカーからは値上げ要請への対応も求められる
- 環境変化に対応した効率化、合理化が求められる状況となっております。

業績概要

- ・ 売上高 40,380百万円（前期比 +5.5%）
- ・ 営業利益 1,237百万円（前期比 △6.3%）
- ・ 経常利益 1,331百万円（前期比 △1.1%）
- ・ 当期純利益 974百万円（前期比 +13.8%）

当期のポイント

2019年3月期の取組みと進捗

自社開発医療機器への取組み

✓自動造影剤注入装置など自社開発医療機器の研究開発活動を継続中。

不整脈事業の全国展開への取組み

✓新規取引先開拓、および近年開拓した施設との取引拡大。

✓2018年8月20日 千葉営業所開設

✓2018年10月1日 京都営業所開設

利益率改善への取組み

✓仕入先メーカーとの協力関係の強化を推進。

✓アシストメディカルシステムズ社製自動造影剤注入装置の取り扱い終了（2017年5月）や医療機関からの値下げ要請対応の影響もあり、利益率が低下。独自商品の販売拡大に努める。

（売上総利益率は13.7%（前期14.2%）、営業利益率は3.1%（同3.4%））

新規商品ラインナップ追加への取組み

✓不整脈シミュレーター（コンピュータ内で疑似的に生体信号を合成、臨床で実際に使用する刺激発生装置を接続して、刺激発生装置の操作にあわせ不整脈の起源等を判別する能力を養成する装置）、放射線防護カートなどの販売準備

2. 当期の決算概要

2019年3月期業績

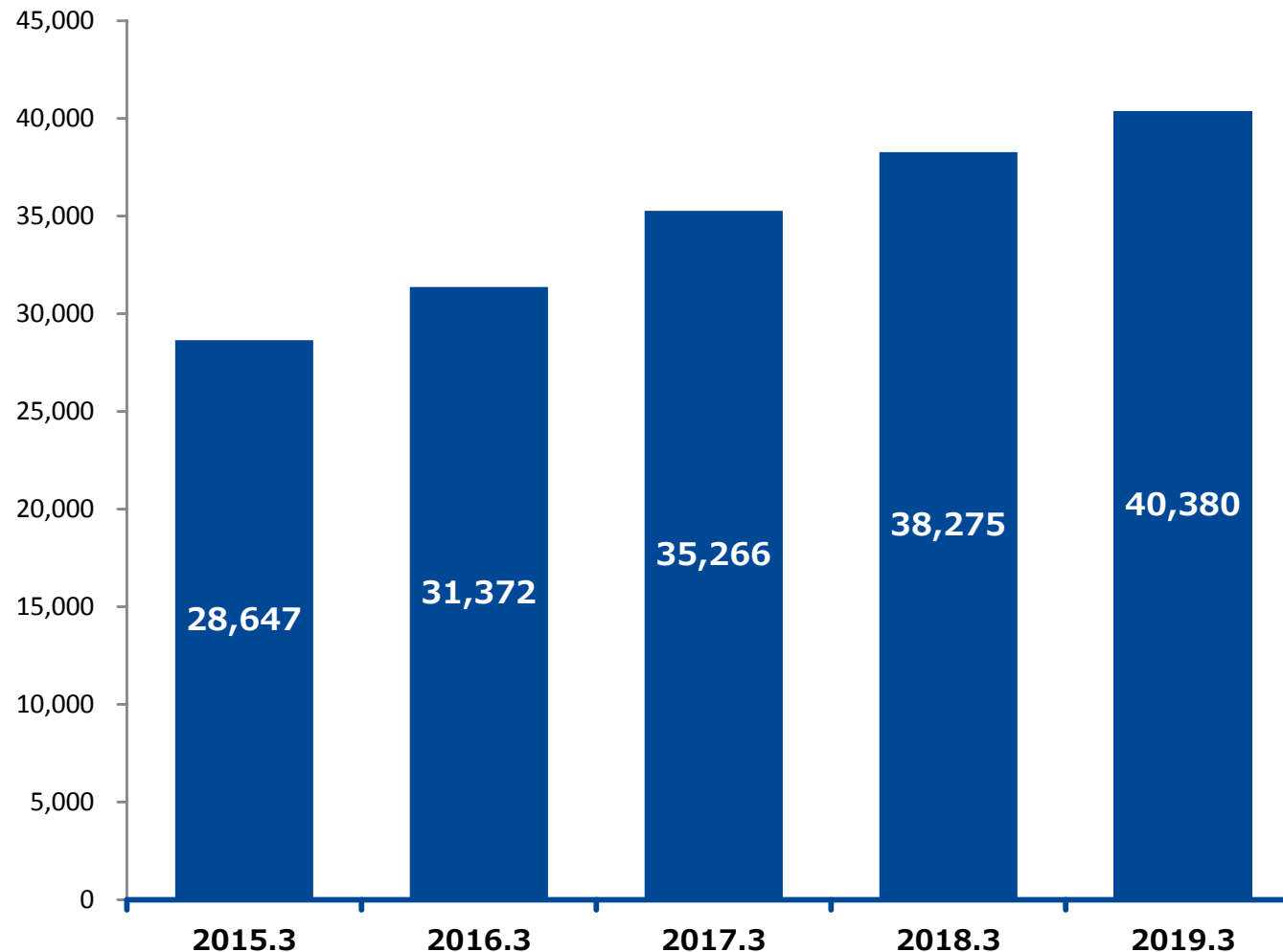
(単位：百万円)

	前期 (2018年3月期)	百分率	当期 (2019年3月期)	百分率	増減率	計画
売上高	38,275	100.0%	40,380	100.0%	+5.5%	41,587
営業利益	1,320	3.4%	1,237	3.1%	△6.3%	1,346
経常利益	1,346	3.5%	1,331	3.3%	△1.1%	1,346
当期純利益	856	2.2%	974	2.4%	13.8%	900
1株当たり 当期純利益	75.92	—	88.46	—	—	79.88

売上高

前期比5.5%増の403億円

(単位：百万円)

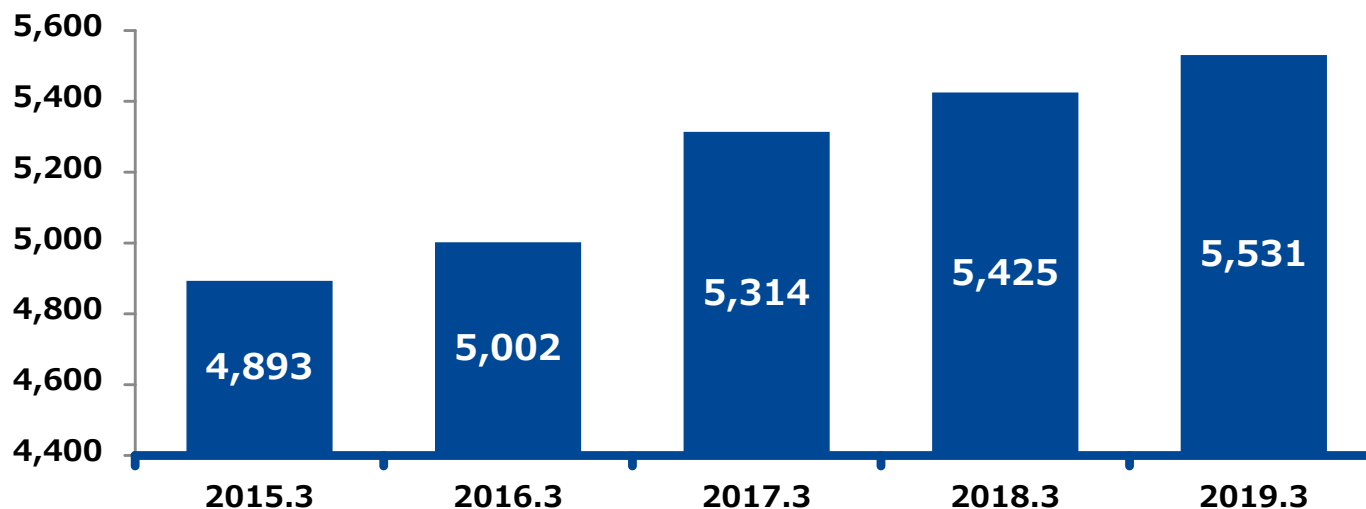


主な要因

- ✓ アブレーション治療用カテーテル類、検査用電極カテーテル等の販売数量の増加
- ✓ エキシマレーザ関連商品が堅調に推移
- ✓ 脳外科関連商品が堅調に推移

売上総利益、営業利益

(単位：百万円)



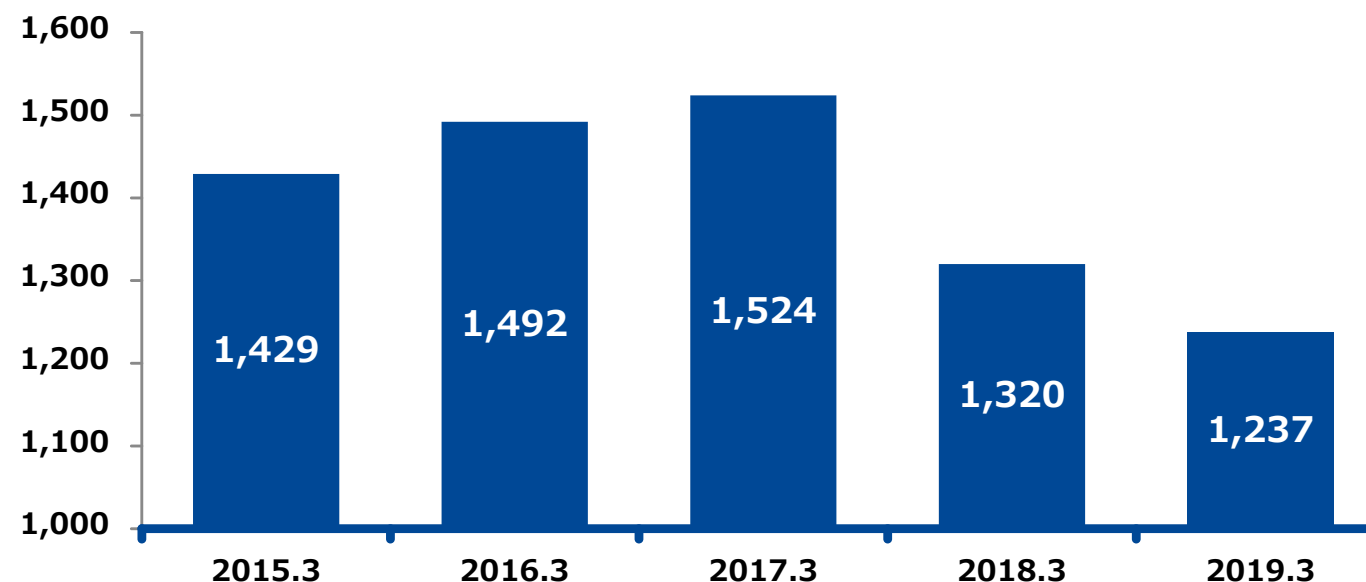
売上総利益

前期比**2.0%増**

55.3億円

売上総利益率：13.7%
(前期 14.2%)

(単位：百万円)



営業利益

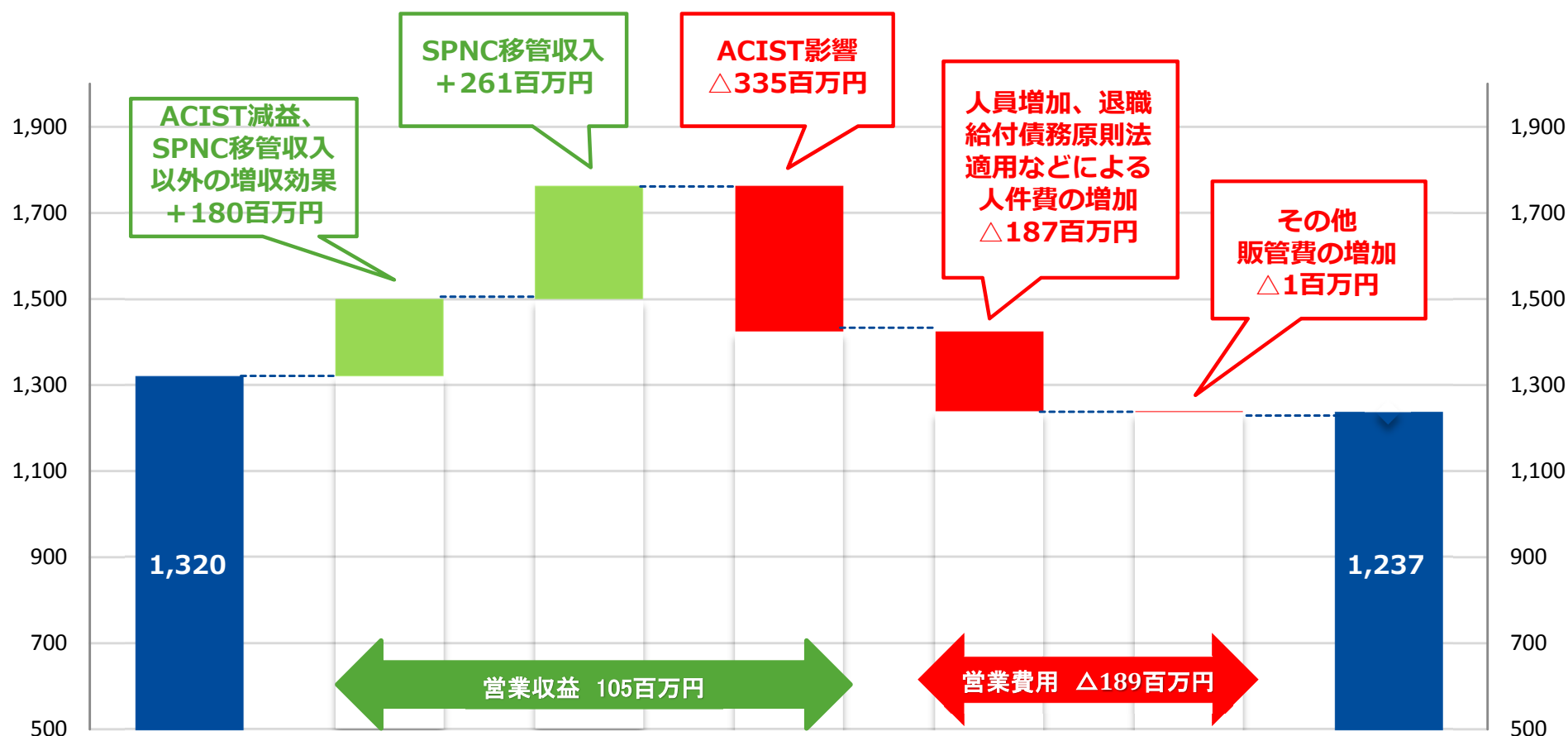
前期比**6.3%減**

12.3億円

営業利益率：3.1%
(前期 3.4%)

営業利益増減分析

SPNC移管業務委託収入など増収効果はあったが、人件費増加のほか2017年5月まで販売していた自動造影剤注入装置の取り扱い終了の影響などにより、前期比増収、**減益**。

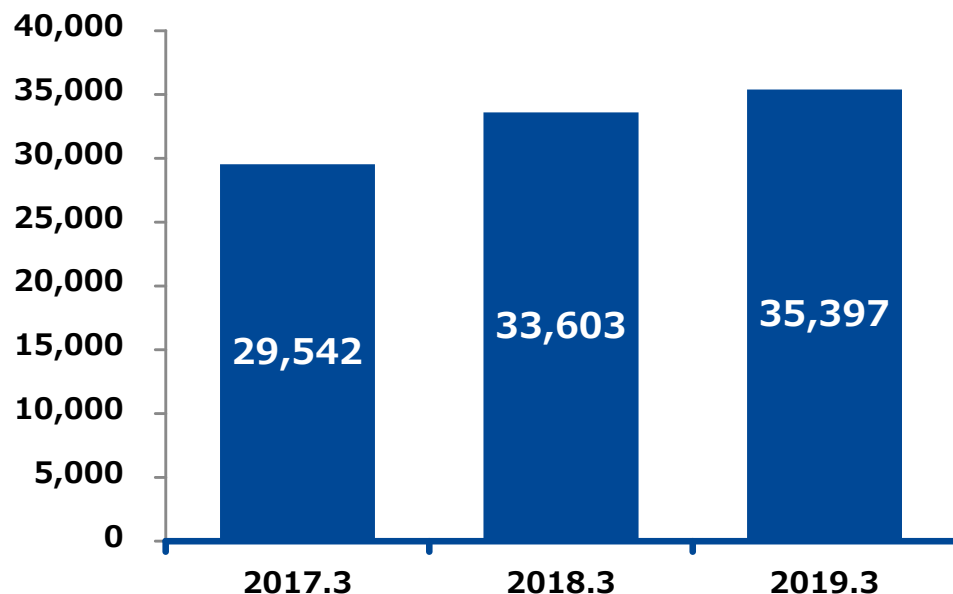


事業別業績概況

(単位：百万円)

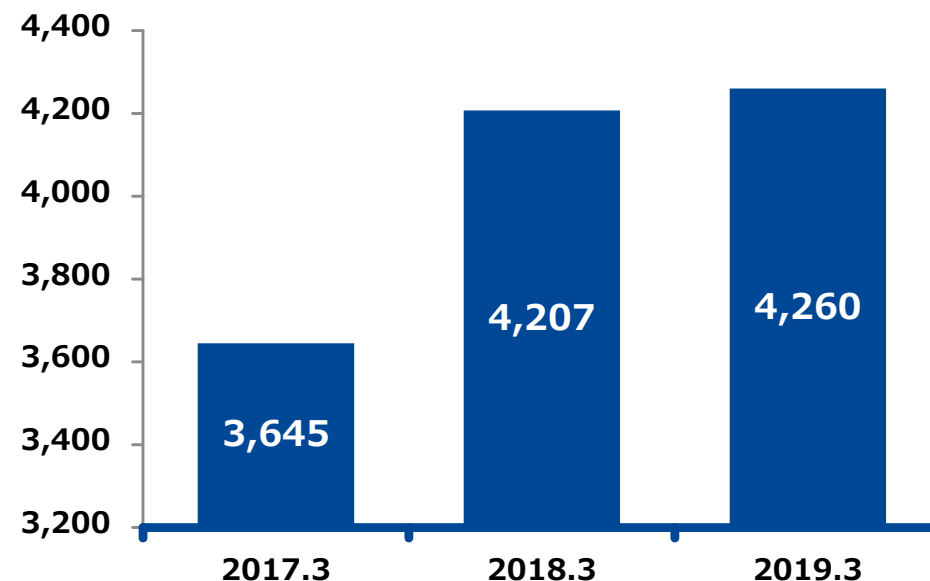
	売上高	前期比	セグメント利益 (粗利益)	前期比
不整脈事業	35,397	+5.3%	4,260	+1.3%
虚血事業	3,647	+1.9%	1,084	+0.7%
その他事業	1,334	+21.9%	185	+32.5%
合計	40,380	+5.5%	5,531	+2.0%

不整脈事業



売上高353.9億円
(前期比**5.3%増**)

✓アブレーション（心筋焼灼術）カテーテル類、検査用電極カテーテル等の主力商品販売増



セグメント利益42.6億円
(前期比**1.3%増**)

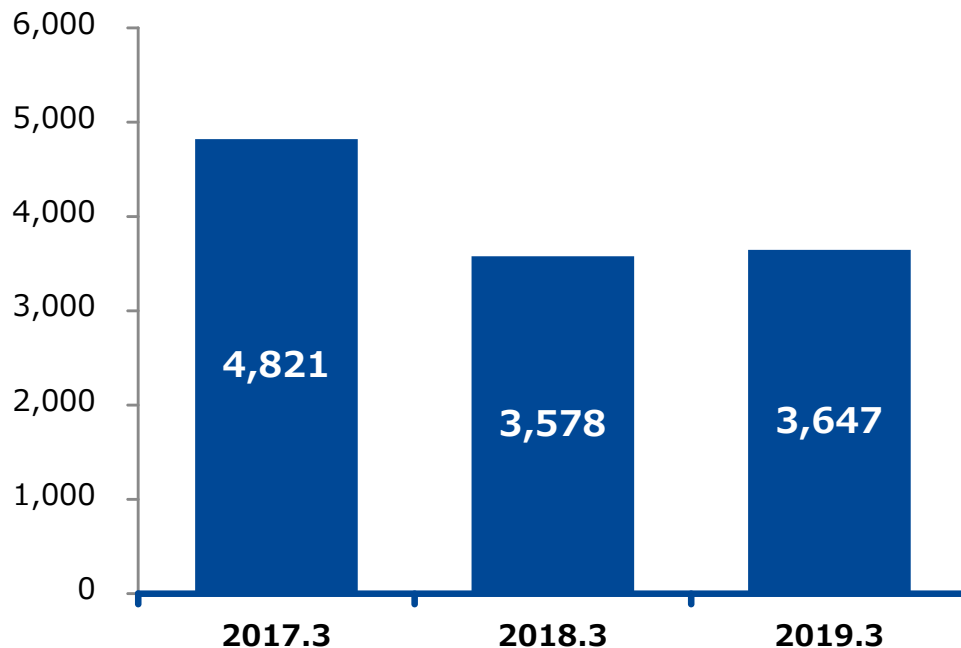
✓粗利率は12.0%（前期は12.5%）

不整脈事業（売上）

（単位：百万円）

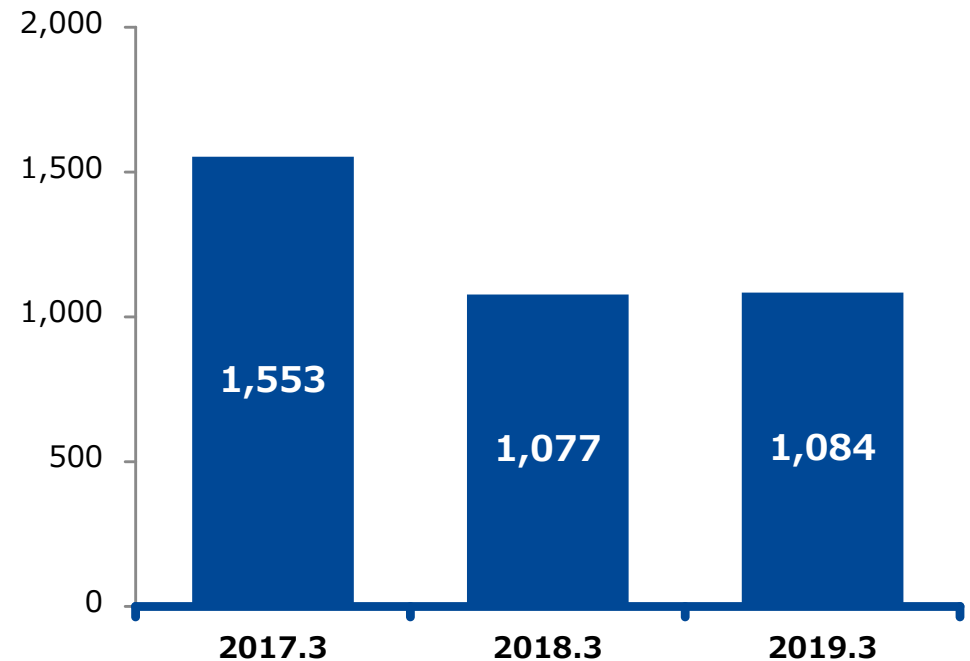
	前期 (2018年3月期)	構成比	当期 (2019年3月期)	構成比	前期比
PM	3,493	10.4%	3,412	9.6%	△2.3%
ICD	2,492	7.4%	2,246	6.3%	△9.9%
CRT-D	1,855	5.5%	1,493	4.2%	△19.5%
電極カテーテル	8,948	26.6%	9,545	27.0%	6.7%
心腔内エコーカテ	2,928	8.7%	3,537	10.0%	20.8%
ABL機能付	3,151	9.4%	4,504	12.7%	42.9%
ABLカテーテル	1,599	4.8%	1,259	3.6%	△21.3%
冷凍ABLカテーテル	1,773	5.3%	1,952	5.5%	10.1%
その他	7,360	21.9%	7,447	21.0%	1.2%
合計	33,603	100.0%	35,397	100.0%	5.3%

虚血事業



売上高36.4億円
(前期比1.9%増)

- ✓ SPNC関連商品の販売が堅調
本体13台（前期7台）
- ✓ 自動造影剤注入装置終了、移管業務
委託収入を除外すると前期比10.9%増



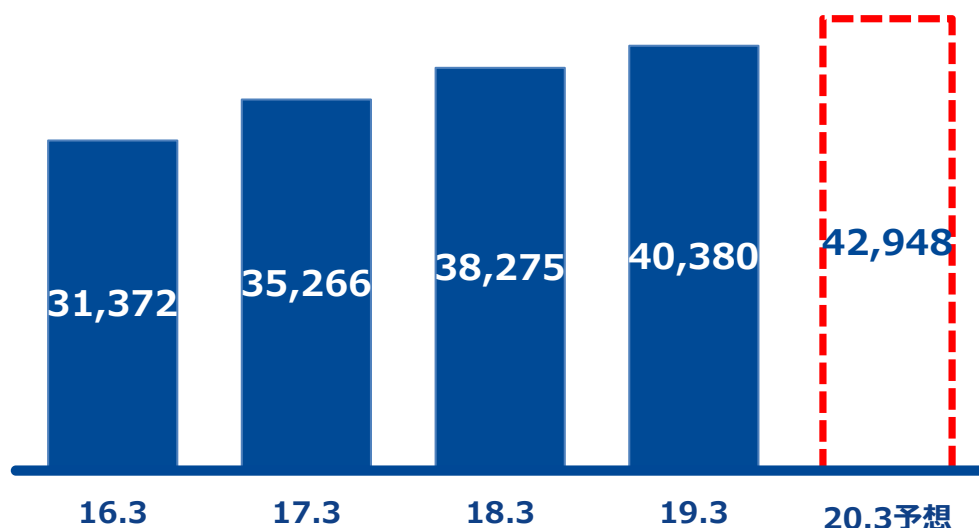
セグメント利益10.8億円
(前期比0.7%増)

- ✓ 粗利率は29.7%（前期30.1%）
- ✓ 自動造影剤注入装置終了、移管業務
委託収入を除外すると前期比9.3%増

3. 業績予想

2020年3月期 業績予想

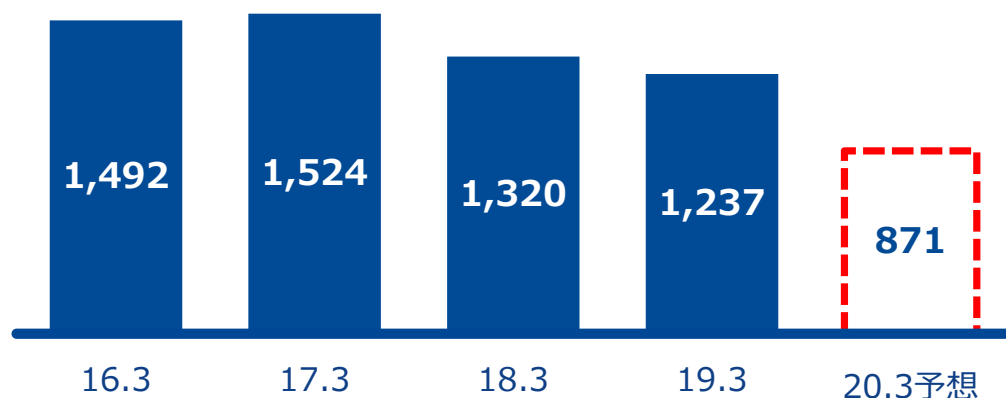
(単位：百万円)



予想売上高 429億円

(前期比6.4%増)

- ✓既存顧客の深耕と営業エリア拡大による上場以来の連続増収を見込む
- ✓独自商品の販売拡大と新商材の獲得に努める
- ✓2019年10月に実施される保険償還価格の改定による引下げを見込む（売上全体の約1.5%）



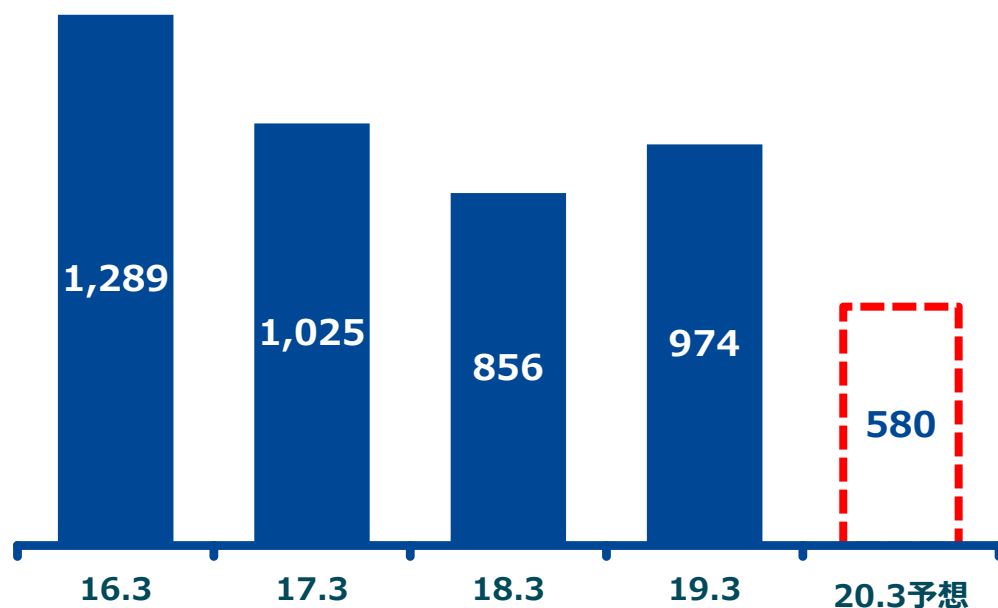
予想営業利益 8.7億円

(前期比29.6%減)

- ✓移管業務委託収入の減少3.3億円を売上増加分で吸収できず
- ✓人件費、減価償却費など販管費の増加を見込む

2020年3月期 業績予想

(単位：百万円)



予想当期純利益5.8億円

(前期比40.4%減)

予想EPS 53.59円

(前期実績88.46円)

減益要因

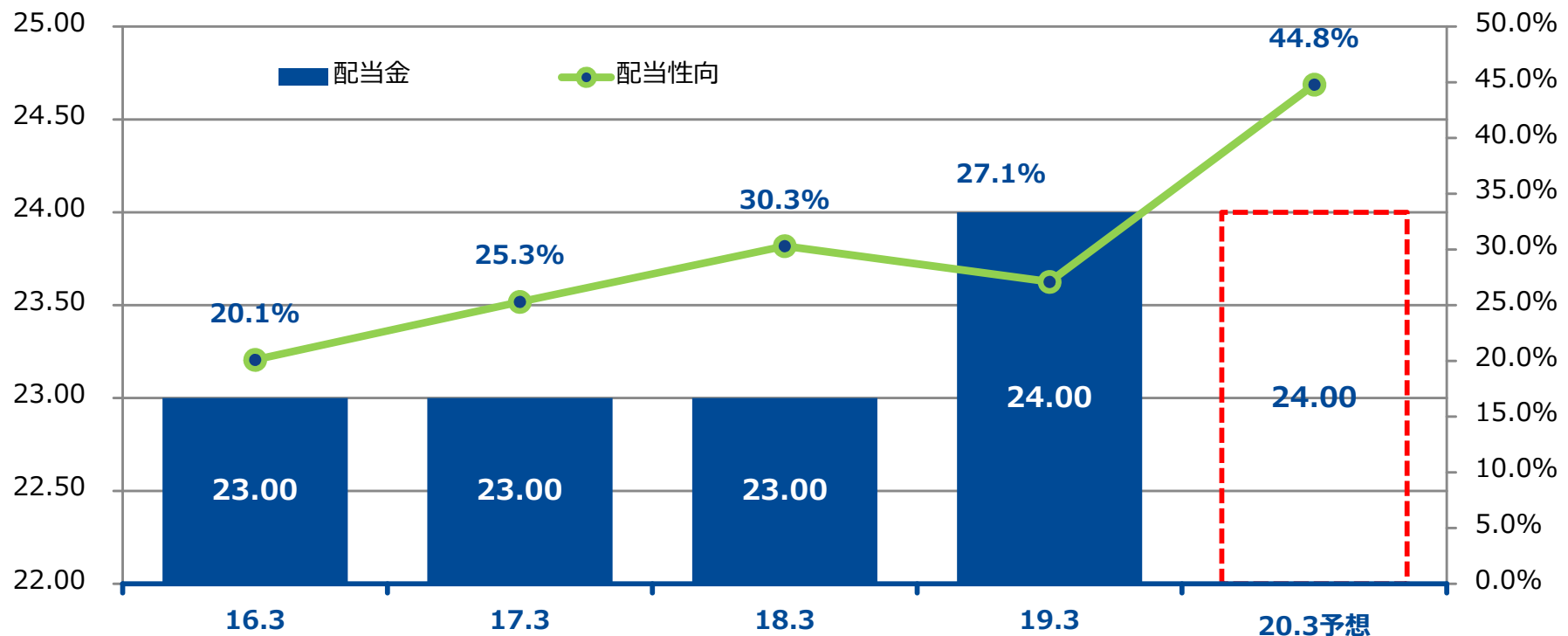
- ✓ 営業利益366百万円の減少
- ✓ 受取保険金78百万円の減少
- ✓ 為替差益14百万円の減少
- ✓ 投資有価証券売却益21百万円の減少

2020年3月期 配当金予想

✓2020年3月期より配当性向30%を目途から
継続的かつ安定的な配当による株主還元を行うことを
基本として配当を決定する方針に変更

予想期末配当 24円 (予想配当性向 44.8%)

(単位：円)



4. 参考資料

社名の由来



▶ *Development*

▶ *Venture*

▶ *x*

常にVenture精神を持ち続け、新医療技術の開拓と開発に貢献し、その成功に無限の可能性を求め続ける企業でありたいとの信念から、社名といたしました。

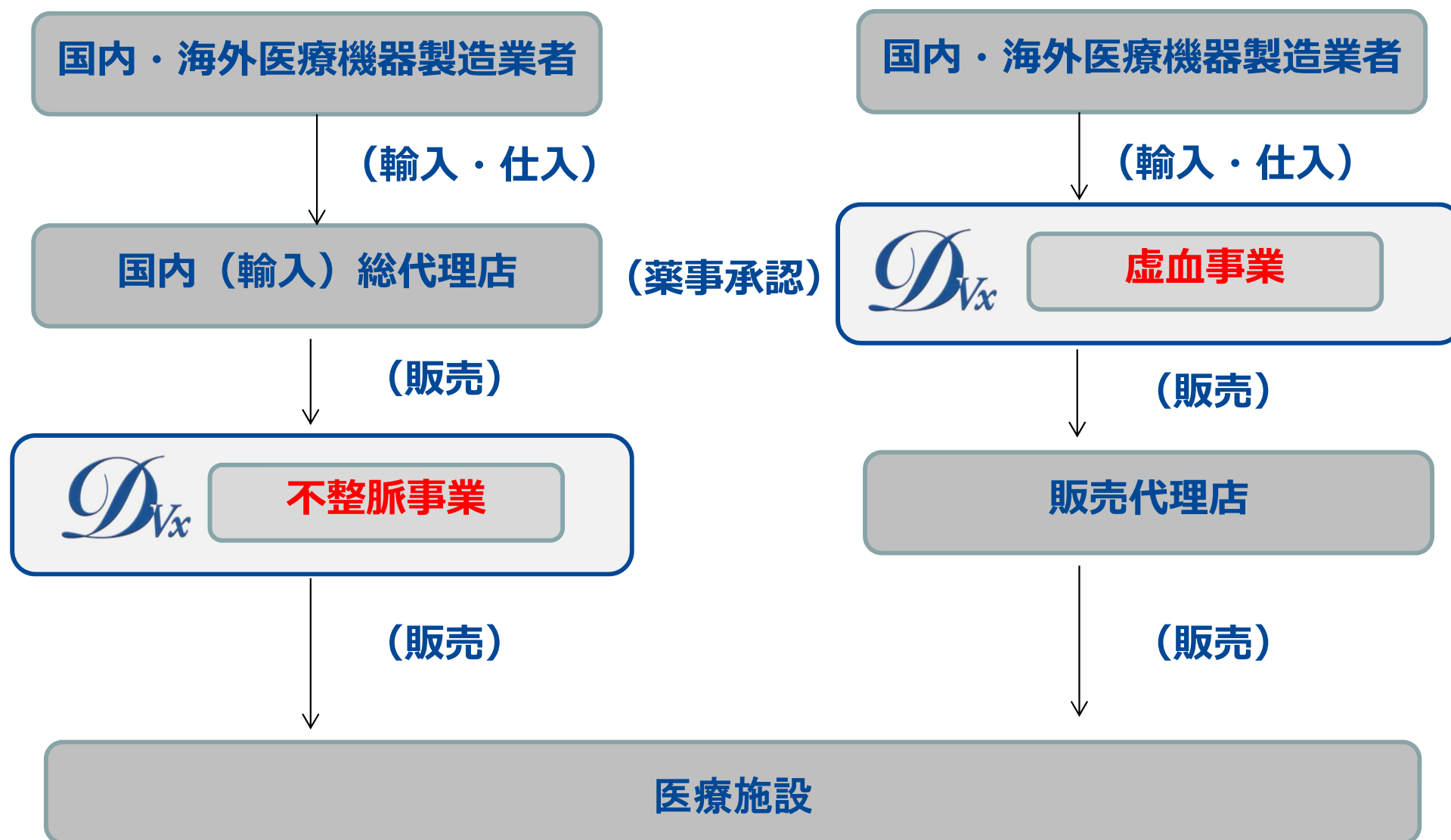
私たちは、医療業界で患者・医師・医療関係者のニーズを絶え間なく追求し、創造的なソリューションを提供する事で、社会に貢献する集団です。

目標に向かって個々の力を最大限に発揮する『心』ある社員により集団を結成し、確かな未来を見据え、目的意識を明確に保持し、変化に対応する新しい企業です。

- 1986年** 心臓ペースメーカー販売とフォローアップ業務を目的として、(株)ヘルツを設立
- 1992年** 心臓電気生理検査用機器の輸入販売を開始
- 1997年** 医療機器輸入会社(有)シー・エム・アイジャパンを子会社化
(株式会社に改組後、ディーブイエックスジャパン(株)に商号変更)
- 2000年** 自動造影剤注入装置 (A C I S T) の輸入販売を開始
- 2000年** 日本で初めて A E D (自動体外式除細動器) を販売 (日本航空の航空機内に搭載)
- 2003年** エキシマレーザ血管形成システムの輸入販売を開始
- 2004年** ディーブイエックスジャパン(株)を吸収合併、(株)ヘルツからディーブイエックス(株)に商号変更
- 2007年** ジャスダック証券取引所に株式上場 (現 東京証券取引所 J A S D A Q)
- 2008年** エキシマレーザ心内リード抜去システムの薬事承認を取得
- 2010年** (株)メディカルプロジェクトより静岡の営業拠点を事業譲受
- 2011年** 「エキシマレーザ血管形成システム」のリードロッキングデバイスが保険適用
- 2012年** 「エキシマレーザ血管形成システム」の冠動脈形成用レーザカテーテルが保険適用
- 2013年** 東京証券取引所市場第二部に上場
- 2014年** 東京証券取引所市場第一部に上場

事業内容①

主要事業のビジネスモデル



事業内容②

主要事業のビジネスモデル

不整脈事業



虚血事業

販売代理店

国内総代理店

(特徴)

体内に植え込むペースメーカー等のデバイスは電池の寿命が8~10年程度となっており、長期にわたって正常な機能性をもたせるためのフォローアップが必要となります。したがって、当事業は既存顧客の売上に新規顧客の売上が「積み上がる」安定的な事業モデルとなります。

(特徴)

医療現場が求めるニーズを汲み取り、海外メーカ等から直接、医療機器を輸入する事業です。独自性を有し、且つグローバル企業の医療機器と競合しないニッチトップ製品の取扱いをポリシーとしており、競合品が少ないことから製品ライフサイクルは長くなる傾向があります。

事業内容③

主要取扱い製品



心臓ペースメーカー

I C D（植込み型除細動器）

C R T - D

（両室ペーシング機能付き植込み型除細動器）

アブレーションカテーテル

（心筋焼灼術用カテーテル）

電極カテーテル（検査用）

エキシマレーザ血管形成システム

稼働台数 142台(2019年3月末)

心内リード抜去（保険適用）

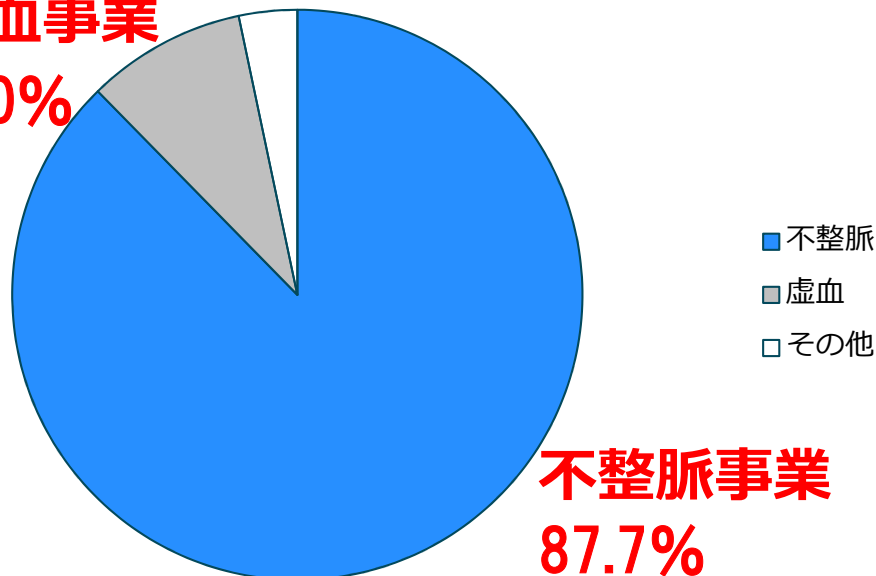
冠動脈形成（保険適用）

末梢血管形成（承認済み）

事業内容④

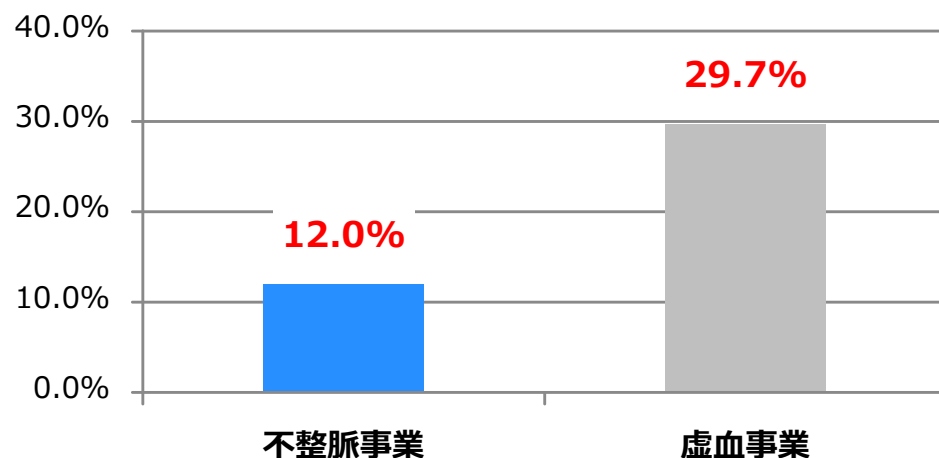
虚血事業

9.0%



不整脈事業
87.7%

2019年3月期事業別粗利益率



(特徴)

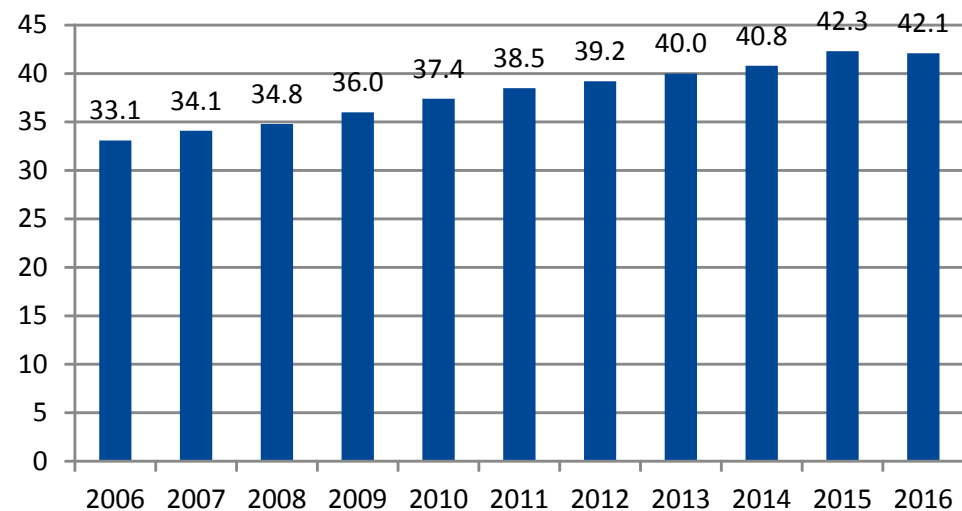
◎ 不整脈事業の売上高割合が87.7%と高く、虚血事業の売上高割合は9.0%にとどまりますが、ビジネスモデルの違いから粗利益率は虚血事業が29.7%と不整脈事業の12.0%より高くなります。

◎ 虚血事業は独自にマーケティング、薬事承認を行うコストが発生することになります。

◎ 不整脈事業は、2年毎の償還価格改定が大きく影響します。

国民医療費

● 国民医療費の推移 (表1)
(兆円)



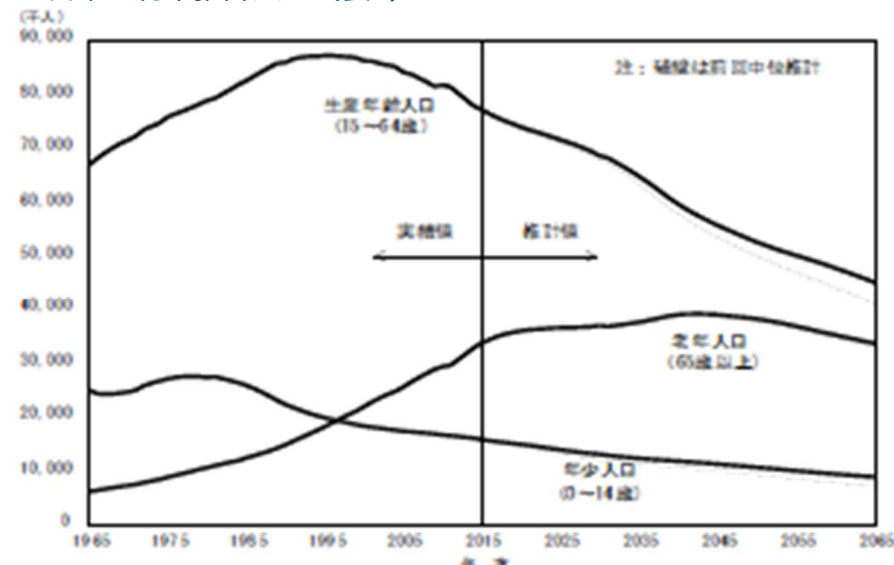
資料：厚生労働省ホームページ 「平成28年度 国民医療費の概況」より抜粋
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-iryohi/16/index.html>

● 国民給付費の将来見通し (表3)

	2006年度 (平成18) 予算ベース	2010年度 (平成22)	2015年度 (平成27)	2025年度 (平成37)
改革後	27.5 兆円	31.2 兆円	37 兆円	48 兆円
国民所得比	7.3%	7.4% ~ 7.7%	8.0% ~ 8.5%	8.8% ~ 9.7%
GDP比	5.4%	5.4% ~ 5.6%	5.8% ~ 6.1%	6.4% ~ 7.0%
改革実施前	28.5 兆円	33.2 兆円	40 兆円	56 兆円
国民所得比	7.6%	7.9% ~ 8.2%	8.7% ~ 9.2%	10.3% ~ 11.4%
GDP比	5.5%	5.8% ~ 5.9%	6.3% ~ 6.6%	7.5% ~ 8.2%
国民所得	375.6 兆円	403 ~ 420 兆円	432 ~ 461 兆円	492 ~ 540 兆円
GDP	513.9 兆円	558 ~ 576 兆円	601 ~ 634 兆円	684 ~ 742 兆円

資料：厚生労働省ホームページ 「医療費の将来見通しに関する検討会」資料より抜粋
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/07/s0701-2.html>

● 日本の将来推計人口 (表2)



資料：国立社会保障・人口問題研究所ホームページ
「日本の将来推計人口 (平成29年推計)」より抜粋
http://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2017/pp_zenkoku2017.asp

国民医療費

わが国の国民医療費は年々増加し、2013年度 (平成25年度) には約40兆円に達しており (表1)、今後20年間は高齢化のさらなる進展と人口減少という大きな人口構造の変化 (表2) や技術革新等により引き続き医療費が伸びると言われています。加えて、今後、所得に対する負担率の増加が見込まれており (表3)、これにより診療報酬体系の見直しや保険償還価格の引き下げなど、政府の医療費抑制政策は一層加速するものと考えられております。

医療機器・用品市場

●医療機器・用品の末端マーケットサイズの推移（表4）

単位：億円、% （ ）内は伸び率

	2013年度	*2014年度	2015年度	*2016年度	2017年度 (推測)	*2018年度 (予測)
末端マーケットサイズ	29,400 (4.8)	29,860 (1.6)	30,290 (1.4)	31,120 (2.7)	31,720 (1.9)	32,200 (1.5)
①卸・小売業者直販分	25,940 (4.9)	26,380 (1.7)	26,830 (1.7)	27,700 (3.2)	28,320 (2.2)	28,900 (2.0)
うち31,32業種の直販分	22,500 (5.1)	22,850 (1.6)	23,350 (2.2)	24,320 (4.2)	25,000 (2.8)	25,600 (2.4)
②メーカー・輸入商社直販分	3,460 (4.2)	3,480 (0.6)	3,460 (-0.6)	3,420 (-1.2)	3,400 (-0.6)	3,300 (-2.9)

※31業種：医療機器卸・小売

32業種：医療用品卸小売

*は診療報酬・薬価改定年度

資料：(株)アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2018年版 NO.1」

●疾病別医療診療医療費（表5）

傷病分類 1)	平成28年度			平成27年度			対前年度	
	順位 3)	医療診療 医療費 (億円)	構成割合 (%)	順位 3)	医療診療 医療費 (億円)	構成割合 (%)	増減額 (億円)	増減率 (%)
総数		301 853	100.0		300 461	100.0	1 392	0.5
循環器系の疾患	1	59 333	19.7	1	59 818	19.9	△ 485	△ 0.8
新生物＜腫瘍＞	2	42 485	14.1	2	41 257	13.7	1 228	3.0
筋骨格系及び結合組織の疾患	3	23 326	7.7	3	23 261	7.7	65	0.3
損傷、中毒及びその他の外因の影響	4	22 974	7.6	5	22 212	7.4	762	3.4
呼吸器系の疾患	5	22 591	7.5	4	22 230	7.4	361	1.6
その他の疾患		131 144	43.4		131 684	43.8	△ 540	△ 0.4
65歳未満								
総数		115 466	100.0		116 644	100.0	△ 1 178	△ 1.0
新生物＜腫瘍＞	1	15 289	13.2	1	15 212	13.0	77	0.5
循環器系の疾患	2	12 569	10.9	2	12 949	11.1	△ 380	△ 2.9
呼吸器系の疾患	3	11 924	10.3	3	12 013	10.3	△ 89	△ 0.7
精神及び行動の障害	4	10 495	9.1	4	10 727	9.2	△ 232	△ 2.2
腎尿路生殖系系の疾患	5	8 151	7.1	5	8 349	7.2	△ 198	△ 2.4
その他の疾患		57 037	49.4		57 395	49.2	△ 358	△ 0.6
65歳以上								
総数		186 387	100.0		183 818	100.0	2 569	1.4
循環器系の疾患	1	46 764	25.1	1	46 869	25.5	△ 105	△ 0.2
新生物＜腫瘍＞	2	27 196	14.6	2	26 045	14.2	1 151	4.4
筋骨格系及び結合組織の疾患	3	15 907	8.5	3	15 764	8.6	143	0.9
損傷、中毒及びその他の外因の影響	4	14 854	8.0	4	14 125	7.7	729	5.2
腎尿路生殖器系の疾患	5	13 468	7.2	5	13 243	7.2	225	1.7
その他の疾患		68 199	36.6		67 770	36.9	429	0.6

資料：厚生労働省ホームページ「平成28年度 国民医療費の概況」より抜粋
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-iryohi/16/index.html>

医療機器・用品市場

国民医療費のなかで医療機器・用品（医療機関、大学・研究所向け）の占める割合を見ると、末端マーケットサイズで1993年度に初めて2兆円を突破しましたが、その後、政府の医療費抑制策を受け保険償還価格の大幅な見直しが行われており、末端マーケットの伸びは低くなっています。

こうした中で、当社がメインターゲットとしている循環器系疾患は、当面人口増加が予想される65歳以上の高齢者において増加する疾病であり、高齢化社会の到来により患者数は大きく増大していくものと予想されます。

さらに、ライフスタイルの変化が患者数増加に拍車をかけており、価格面では他の医療機器・用品と同様に医療費抑制策の影響を受けて下落傾向にあるものの、市場そのものは大きく拡大していくものと予想されております（表4、表5）。

不整脈事業（販売代理店業）の市場

不整脈とは、心臓を動かす刺激の発生または刺激が伝わる伝導路の異常によって心臓のリズムが乱れる疾病のことで、脈が遅くなる「徐脈」、速くなる「頻脈」、リズムが不規則になって脈が飛ぶ「期外性収縮」の3つに大別されます。原因は、先天的なもの以外に高齢化や喫煙、ストレスなどといわれています。不整脈事業の市場は、高齢化や生活スタイルの変化に伴う患者数の増大、新商品開発による適応患者の増加により安定した拡大を続けております。

商品別では、心臓ペースメーカ市場、ICD（植込み型除細動器）やCRT-D（両室ペーシング機能付き植込み型除細動器）といったハイパワーデバイスと呼ばれる商品市場が伸び悩む半面、アブレーションカテーテル（心筋焼灼術用カテーテル）、電極カテーテル（検査用）の市場規模が大きく伸びており、横ばい状況が続いている医療機器・用品市場全体の中にあって、不整脈事業の市場は堅調に増加しております。今後も保険償還価格の下落は避けられないものの、市場そのものが拡大基調にあるため、このマイナス分を十分に補うことができると見られております（表6）。

●疾病別医科診療医療費（表6）

（単位：百万円）

製品	2013年		2014年		2015年		2016年		2017年		2018年（予測）	
		伸び率	※	伸び率		伸び率	※	伸び率		伸び率	※	伸び率
心臓ペースメーカ	37,951	2.3%	38,128	0.5%	38,485	0.9%	38,085	-1.0%	37,905	-0.5%	37,440	-1.2%
ICD/CRT-D	30,079	4.4%	28,563	-5.0%	28,116	-1.6%	30,933	10.0%	29,675	-4.1%	30,190	1.7%
アブレーションカテーテル	12,455	10.5%	13,190	5.9%	17,330	31.4%	22,170	27.9%	26,710	20.5%	32,445	21.5%
電極カテーテル（検査用）	17,792	17.9%	18,028	1.3%	21,640	20.0%	22,935	6.0%	30,004	30.8%	31,495	5.0%
リード類	13,644	3.4%	12,201	-10.6%	11,472	-6.0%	11,959	4.2%	11,384	-4.8%	11,120	-2.3%
合計	111,921	6.1%	110,110	-1.6%	117,043	6.3%	126,082	7.7%	135,678	7.6%	142,690	5.2%

（参考）当社売上高（実績）

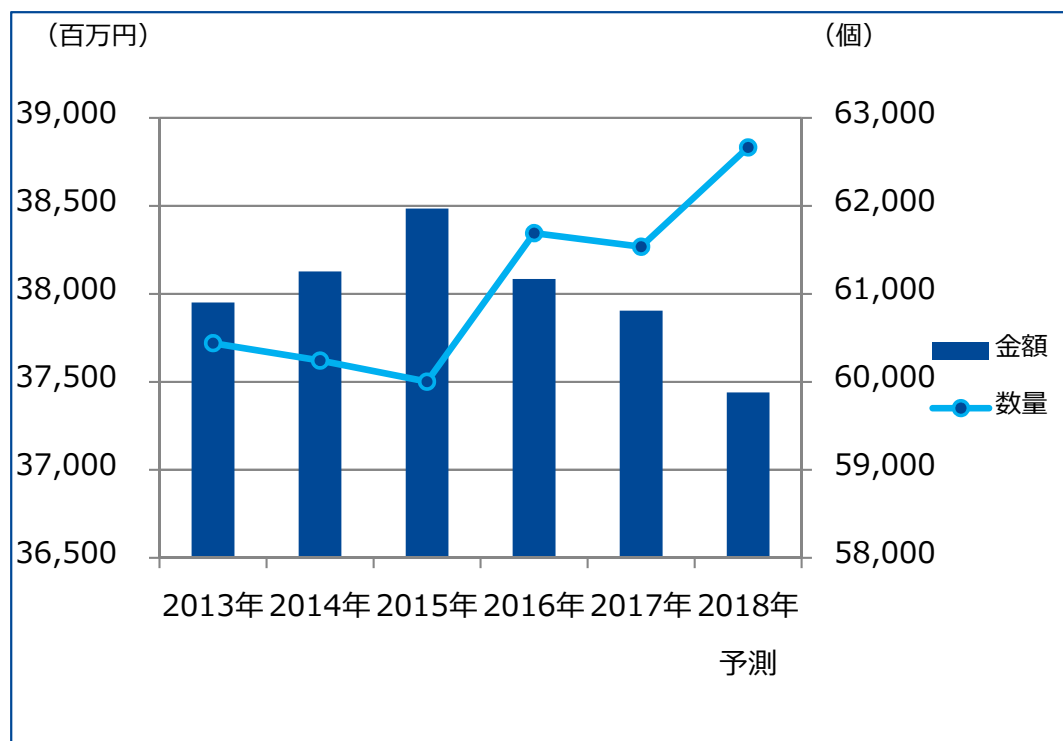
全社	26,420	15.5%	28,647	8.4%	31,372	9.5%	33,200	5.8%	35,266	6.2%	38,275	8.5%
内不整脈事業	21,607	14.7%	23,268	7.7%	25,667	10.3%	27,137	5.7%	29,542	8.9%	33,603	13.7%
市場占有率	19.3%		21.1%		21.9%		21.5%		21.8%		23.5%	

資料：(株)アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2018年版 No.1」より抜粋

© 2019 DVx Inc. All rights reserved. 28

不整脈事業（販売代理店業）の主要製品市場

●心臓ペースメーカーの市場規模（表7）



資料：㈱アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2018年版 No.1」を基に当社作成



© Medtronic, Inc. 2009. All Rights Reserved.

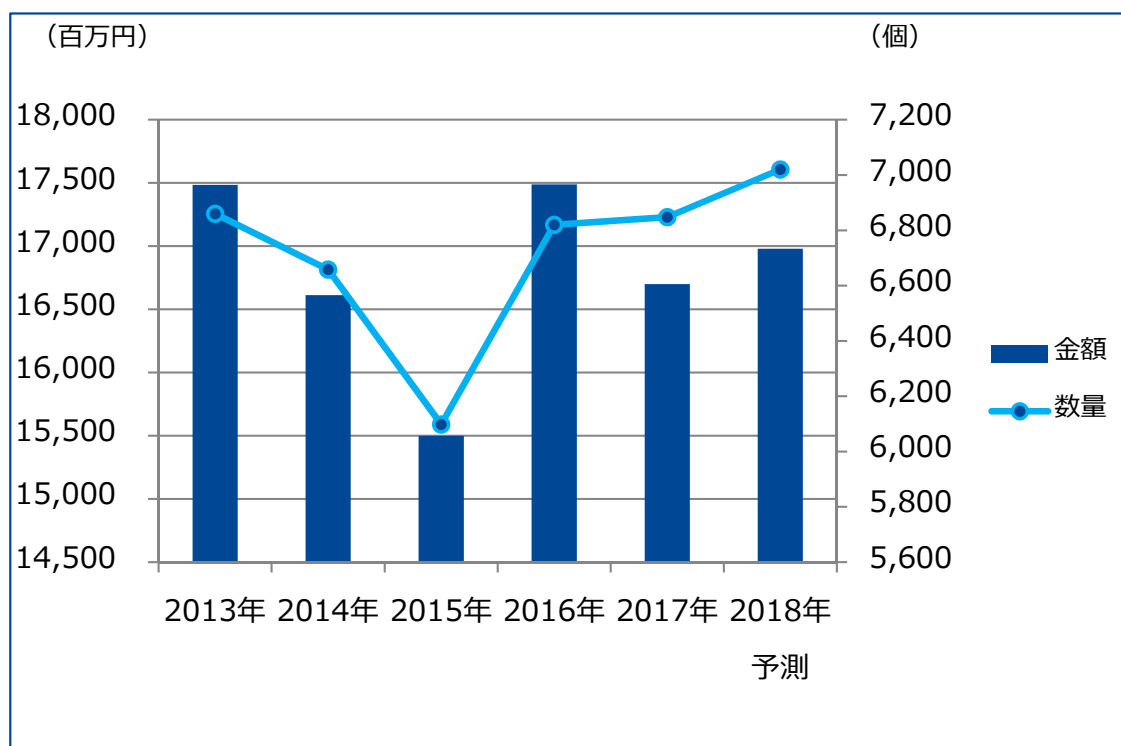
心臓ペースメーカー

心臓ペースメーカーは、不整脈のうちでも、主に徐脈の治療に使用されますが、同市場は、数量ベースでは増加基調が続いているものの、償還価格の引き下げによる影響を受けており、直近の市場規模は380億円前後で推移しております。（表7）。

今後の見通しとしては、2018年4月の改定によりMRI対応という区分が無くなる等、償還価格の低下傾向は続くと思われ、引き続き高齢化等による患者数の増加により数量の伸びが予想されますが、償還価格の引下げにより金額ベースでは下落傾向にあります。

不整脈事業（販売代理店業）の主要製品市場

● ICDの市場規模（表8）



資料：(株)アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2018年版 No.1」を基に当社作成



ICD（植込み型除細動器）

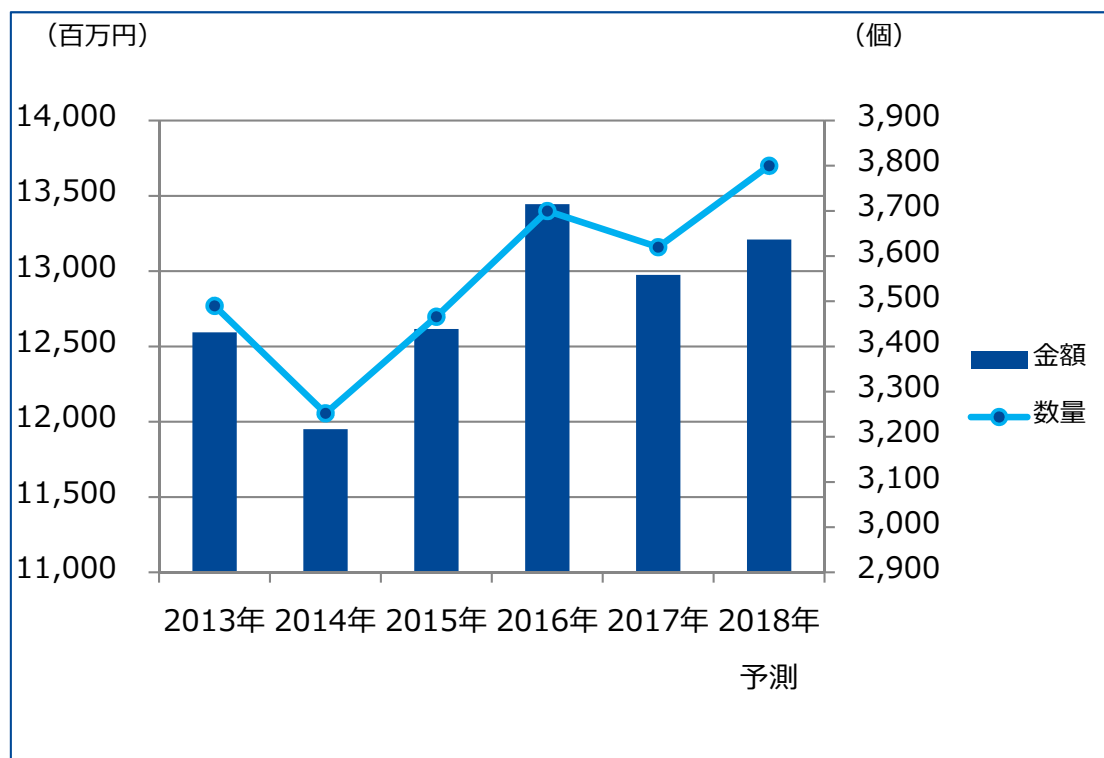
心臓ペースメーカーが徐脈の治療に使用されるのに対してICD（植込み型除細動器）は頻脈の治療に用いられております。

同商品は、1996年4月の診療報酬改定で保険適用となっており、心臓ペースメーカーと比較すると新しい商品ですが、**適応患者の増加や新商品の登場とともに市場規模が拡大しております。**

2016年には皮下植込式電極併用型S-ICDが発売され、血管内にリードを埋め込まないため感染症や合併症などのリスクを低減できるとして初年度から市場にインパクトを与えました。（表8）。

不整脈事業（販売代理店業）の主要製品市場

● CRT-Dの市場規模（表9）



資料：(株)アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2018年版 No.1」を基に当社作成



CRT-D

（両室ペーシング機能付き植込み型除細動器）

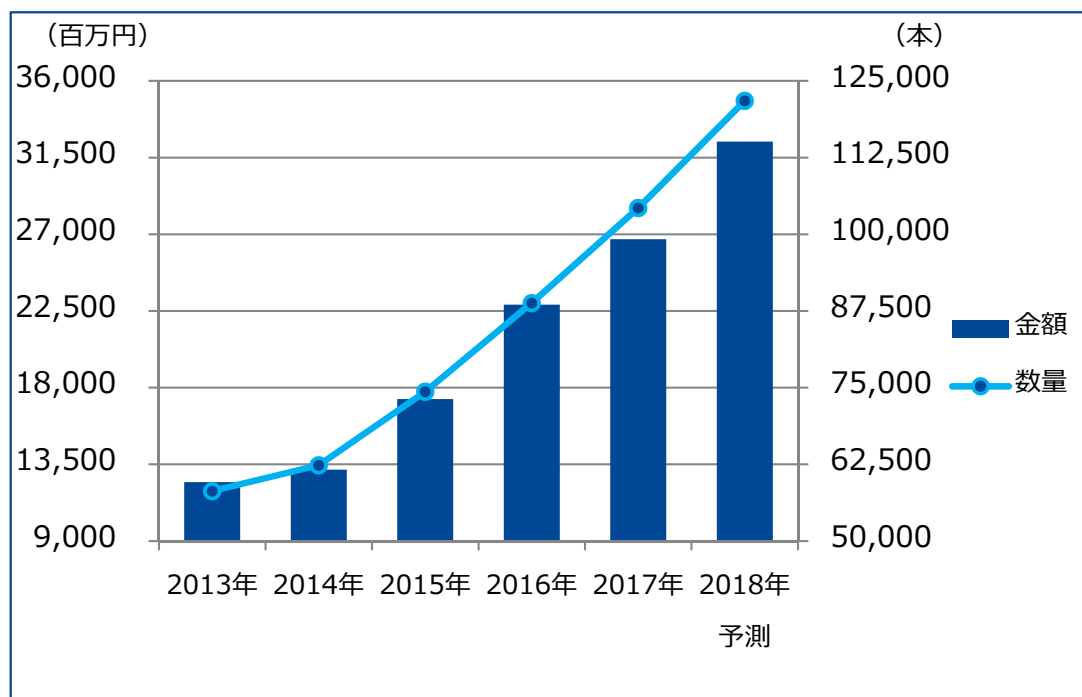
CRT-D（両室ペーシング機能付き植込み型除細動器）は、ICDの機能と心不全の治療の一種である心臓再同期療法の機能を併せ持つ商品であり、2006年8月に保険適用を受けたものです。

CRT-Dは施設基準、算定基準の他、適応基準が定められており、予防としての採用が制限されている影響で、新規植込みは大きな伸びがない状況ですが、**2016年に自動調整機能搭載、2017年にマルチポイントペーシング機能搭載が発売されるなど高機能新製品の発売により微増傾向にあります（表9）。**

不整脈事業（販売代理店業）の主要製品市場



● アブレーションカテーテルの市場規模（表10）



資料：(株)アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2018年版 No.1」を基に当社作成

アブレーションカテーテル (心筋焼灼術用カテーテル)

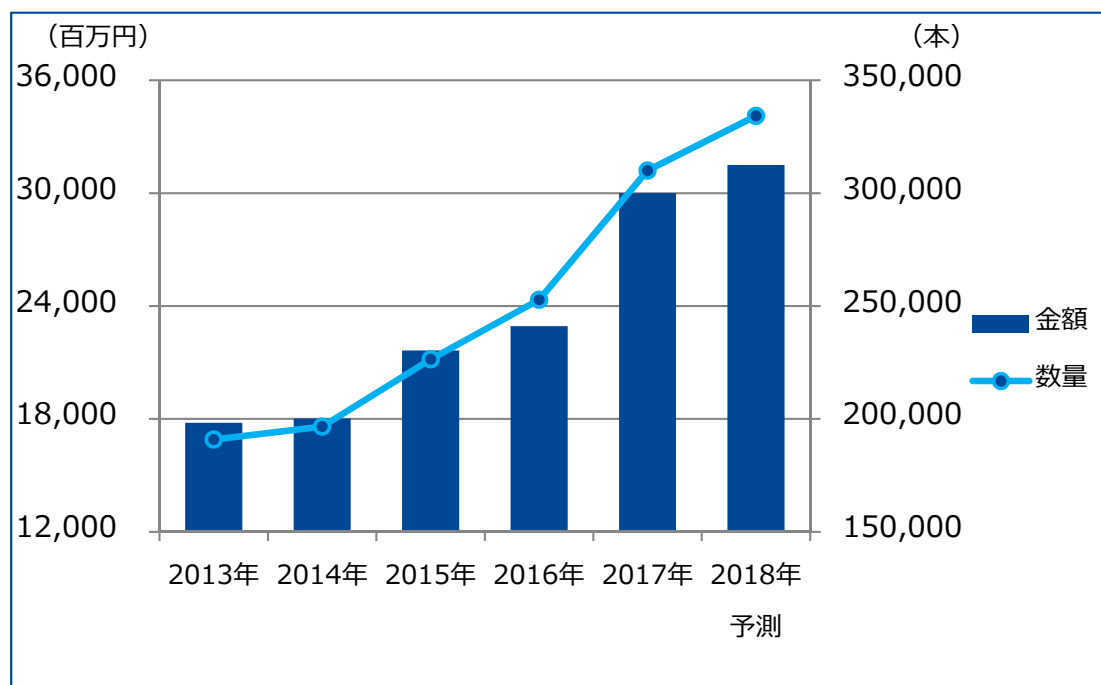
アブレーションカテーテル（心筋焼灼術用カテーテル）は、頻脈の原因となる心筋組織を焼灼することで治療する商品であります。WPW症候群と呼ばれる症状の他、房室結節リエントリー性頻拍（AVNRT）、心房粗動（AFL）、心室頻拍（VT）に加え、心房細動（Af）の治療にも用いられるようになる等、**対象となる症例の幅が広がってきたことから市場規模は年々増加しており、今後もその傾向が続くものと考えられます（表10）。**

なお、冷凍アブレーションカテーテルは、カテーテル心筋冷凍焼灼術に使用する商品で、カテーテル心筋冷凍焼灼術は、より短時間で確実な心房細動治療を可能とします。

不整脈事業（販売代理店業）の主要製品市場



●電極カテーテルの市場規模（表11）



資料：(株)アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2018年版 No.1」を基に当社作成

電極カテーテル（検査用）

電極カテーテルは、不整脈の診断、重症度評価、抗不整脈薬の薬効評価の他に、心臓ペースメーカーや手術療法、ICDの適応決定等、重要な役割を持った商品であります。不整脈の症例数増加に伴って継続的に数量が増加しており、今後もこの傾向は続くものと考えられます（表11）。

虚血事業（国内総代理店業）の市場

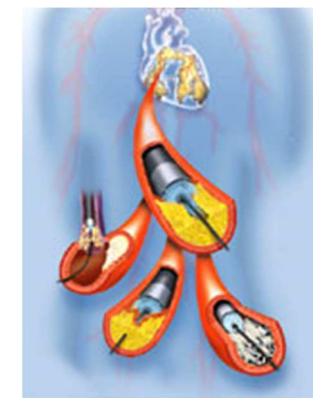
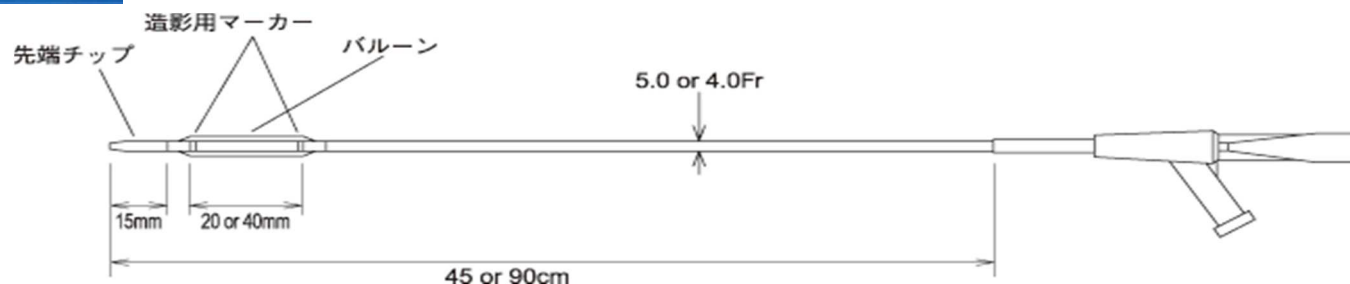
虚血性疾患は、血管が詰まったり細くなったりして起こる疾病で、心臓の冠動脈が原因で起こる心筋梗塞や狭心症、脳の血管が原因で起こる脳梗塞等がその代表的なものです。

原因となる動脈硬化は、糖尿病や高血圧、高脂血症等によって進行し、肥満や喫煙、運動不足、ストレスの多い生活も動脈硬化を促進させるといわれています。

当社は、国内総代理店として医療機器を販売しておりますが、医療機器として国内流通させるためには医薬品医療機器等法に基づき厚生労働省の承認が必要になります。

Resolution / Resolution SD

Long Tapered PTA Balloon Catheter



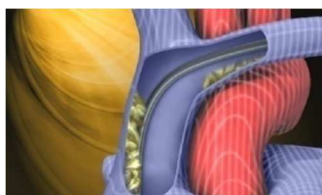


エキシマレーザ血管形成システム

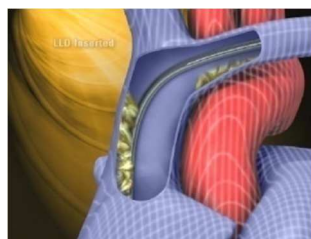
当社が日本国内で独占販売しているエキシマレーザ血管形成システムには、現在日本国内において以下の2つの治療に適用が認められています。

① エキシマレーザによる心内リード抜去術

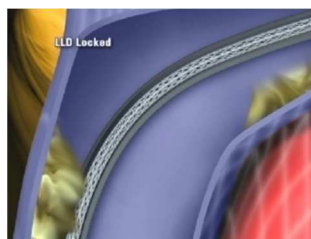
ペースメーカーやICD等のデバイスが菌に感染すると、デバイスと心臓をつなぐリード線を通じて全身に菌の感染が広がります。感染を完全に治療するには、感染源であるデバイスやリード線を抜去する必要があります。しかし、リード線は血管内や心臓内に長期間留置されることで、血管や心臓の組織と癒着しており、抜去することが困難になります。レーザシースカテーテルの先端から照射するエキシマレーザにより、リード線に癒着した血管や心臓の組織を蒸散して剥離することで、リード線の抜去を可能にします。



① ペースメーカー、ICD
リード線が癒着



② リードロックングデ
バイスをペースメーカー等
のリード線中空に挿入



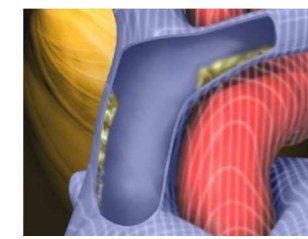
③ リードロックングデ
バイスを広げペースメー
カ等リード線に固定



④ リードロックングデ
バイスを牽引しながら
ペースメーカー等リード
線にレーザシースを
かぶせる



⑤ 癒着部分を蒸散し
リード線を血管壁から
剥離



⑥ ペースメーカー等リード
線を抜去終了

虚血事業（国内総代理店）の製品紹介

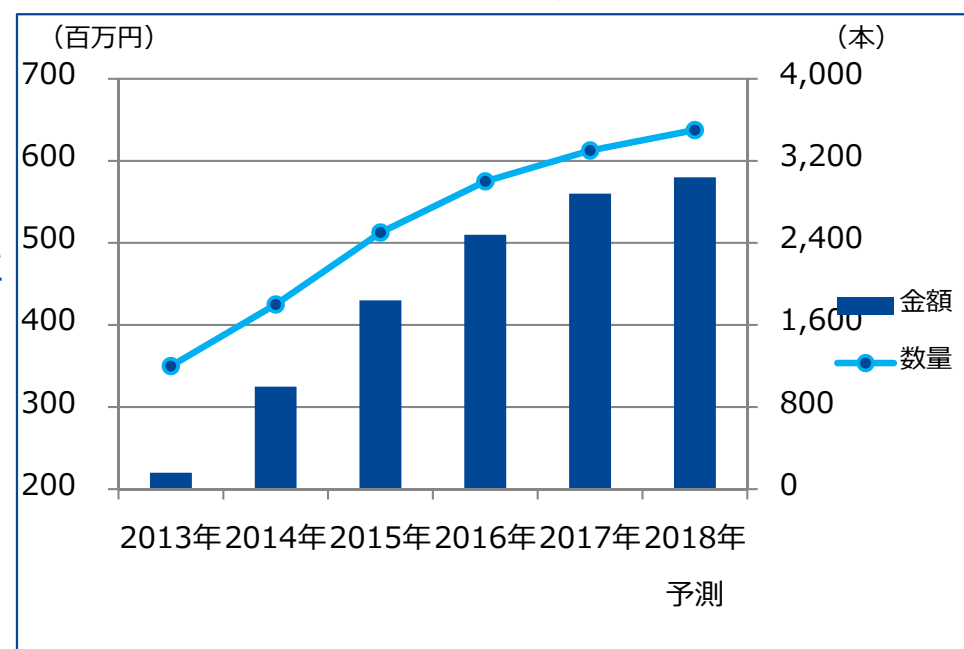
②エキシマレーザによる冠動脈形成術

心臓に血液を運ぶ冠動脈が動脈硬化や血栓によって狭窄または塞栓すると、狭心症や心筋梗塞の原因になります。血管内に挿入したエキシマレーザ専用カテーテルの先端から狭窄や塞栓を起こしている部位にエキシマレーザを照射することにより、血栓などを分子レベルで分解し**冠動脈の血流を改善**します。

2012年4月にエキシマレーザ心内リード抜去術の手技（治療行為）が正式に保険収載され、エキシマレーザによる冠動脈形成術も、2012年4月に手技が保険適用となったのに続き、7月には専用のカテーテルの償還価格が認められたことで、一般の保険診療として治療に用いることが認められました。当社が販売するエキシマレーザ血管形成システムは、この心内リード抜去術や冠動脈形成術に使えるレーザ装置として**日本国内で唯一承認された商品**です。年間43,000人以上が死亡する急性心筋梗塞やステント治療後の狭窄や塞栓の再発の治療において、エキシマレーザが持つ大きなメリットに対する医師の関心が高まっており、冠動脈形成術の本格的な普及を予想しております。



●レーザカテーテルの販売実績の推移（表13）



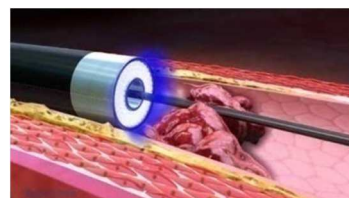
資料：(株)アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2018年版 No.1」を基に当社作成



①病変部へガイドワイヤーを通します



②レーザカテーテルを入れます



③病変部へレーザを照射します



④病変部が蒸散

D_{Vx} *Development* *Venture* *X* (無限の可能性)

■ I R についてのお問い合わせ先 財務経理部



TEL : 03-5985-6832 FAX : 03-5985-6106 U R L <http://www.dvx.jp/>

本資料はディーバイエックス株式会社の理解を促す参考に資するため、作成したものであり、本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。